

May 23, 2021 11:00-17:15

## IOS(包括的矯正歯科研究会) 2021年 第二回例会 抄録

コロナ禍において矯正治療への注目は益々高まっております。しかしながら、誤った認識やエビデンスの乏しい情報も多く目にするようになって来ました。同時に様々なトラブルも急激に増えて来ているように感じます。そこで、我々IOSでは会員が使える矯正歯科治療同意書を作成しました。また、同意書を運用する上では術者および患者の双方が矯正治療に対する理解を深める必要が不可欠です。そこで、今回は矯正治療および隣接分野に対する知識収集のためのリテラシーを高めるために必要な考え方を教育講演として企画しました。そして、会員発表においてはIOSが提唱する臨床コンセプトを用いた包括的矯正歯科に適した診査診断方法を実際の症例にどのように用いていくべきかに関して2人の先生に発表して頂きます。

大会長 榊原 毅

演者 包括的矯正研究会 (IOS) 代表 綿引淳一 先生

## トラブルのない矯正治療の実践に必要なこと

### 矯正治療に対するリテラシーを高める

八重歯が可愛いとされてきた日本独自の歯並びに対する価値観は、近年の国際化によってもはや過去の文化になりつつある。そして、コロナ禍によって美容整形ブームと同調するかのように矯正治療の人気も加速した感がある。特に、従来は矯正治療といえは複雑かつ高度な知識と技術を有するワイヤー矯正が主流であったが、近年はマウスピース矯正など比較的簡単に矯正治療を取り入れることが可能な時代になったことも背景にある。

一方、矯正治療に伴うトラブルも急増している。これらのトラブルは、GP、および矯正専門医を問わず多数報告がされている。

筆者自身も最近、矯正治療の目的が明確にされないままに部分矯正治療を行なっている例や患者自身の矯正治療に過剰な期待や誤解によって大小の問題を生じている例をしばしば耳にすることがある。

現在、インターネットやSNS、そしてウェビナーなどで以前よりも多くの矯正治療の情報を簡単に得ることができるようになってきた。

しかしながら、無数に存在する情報の中には、従来の矯正学の学問の志から大きく逸れた誤った情報も多く溢れている。

情報に溢れるインターネットの社会においては、近年”リテラシーを高める”というキーワードを目にすることが多くなってきた。

そこで、本講演では巷に溢れる矯正治療の情報に惑わされないために必要不可欠な歯科矯正治療の本質を共有し、矯正歯科治療に対するリテラシーを高めて行きたい。さらに、先日会員へ配信させて頂いたIOS公式矯正治療同意書の使用方法も併せて解説して行きたい。

**教育講演 2 12:15～13:00**

**矯正専門医に理解していただきたい**

## **包括的歯科診療におけるインプラント治療の基礎**

**演者 榊原 毅 先生**

欠損を含む包括的歯科治療においてインプラント治療は重要なオプションの1つである。包括的歯科診療においてインプラントを効果的に使用するためにはインプラントの特性、天然歯との違いを知ることが重要である。

また治療計画立案、実際の診療、メンテナンスにおいて注意、配慮すべき事項がある。

今回はこういった包括的歯科治療におけるインプラントについての基本的事項について解説する。

(略歴)

榊原 毅 先生

1994年 東京医科歯科大学 歯学部卒業

医療法人社団港央会 理事長 さかきばら歯科 院長

(所属)

包括的矯正歯科研究会 (IOS) 副代表

日本口腔インプラント学会 専門医

日本歯周病学会 認定医

日本矯正歯科学会 会員

元麻布会 理事

## 全顎的補綴治療におけるIOSコンセプトを用いた治療計画の考察

日常の診療では、できるだけ患者固有の咬合関係を変化させず充填処置や補綴治療を行うことが多い。私も多くの場合、咬頭嵌合位や咬合高径を変えないように意識して日常の診療を行なっている。しかし、咬合崩壊を伴う症例や補綴的な理由で咬合の是正が必要な際には、咬合再構成を検討しなければならない。とくにインプラント埋入が伴う症例では、埋入ポジションを設定する際に最終的な顎位を模索しながら治療を進めていく必要がある。

本発表では、インプラント埋入を伴う全顎的補綴治療による咬合再構成の症例において綿引先生が提唱するDual Incisal Edge Position法に準じた治療計画を立案し、IOSコンセプトの矯正歯科治療以外における有用性をIOS会員と共に理解を深めていきたい。

### (略歴)

行田 長隆 先生

2004年 日本大学 松戸歯学部 卒業

2008年 友和デンタルクリニック 開院

### (所属)

包括的矯正歯科研究会 (IOS) central member

日本臨床歯周病学会

演者 内藤 聡美 先生

## ブラケットスロットが及ぼす矯正治療ゴール設定への影響

近年、成人における矯正治療のニーズは増加しており、それに追従して歯周疾患、補綴治療など他分野にわたる包括的矯正治療を行う患者も増えていると考えられる。

しかしながら、矯正以外の分野の治療が必要な包括的矯正治療においては従来の矯正治療単独の治療に比べてより明確で緻密な治療計画が不可欠になる。また、複数の専門医が一つの症例に携わることが多いため治療計画の共有化が非常に重要になる。

そこで、本症例では歯肉退縮が認められたケースに対して矯正治療途中から歯周組織再生治療の連携治療が計画されたケースを供覧し、私が今まで矯正治療単独で行なっていた治療計画や022X028スロットブラケットを用いた矯正治療の問題点や特性などを考察したい。さらに、今後包括的矯正治療を行う際の綿密な治療計画の重要性および治療目標の達成を実現させるため有効なIOSが提唱する診断方法やブラケットセレクションの考え方を文献考察を交えて共有して行きたいと考えている。

(略歴)

内藤 聡美 先生

2006年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業

2011年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科咬合機能矯生学分野歯学博士取得

2012年 東京医科歯科大学歯学部附属病院矯正歯科外来医員

日本矯正歯科学会認定医取得

2017年 さとみ矯正歯科 開業

2018年 AQUA 日本橋 DENTAL CLINIC 矯正専門医チームにて勤務 (非常勤)

(所属)

包括的矯正歯科研究会 (IOS) central member、Teeth Alignment The Specialist

日本矯正歯科学会認定医、SJCD 東京所属、日本顎変形症学会、日本口蓋裂学会

16:20-16:35

IOS での会員発表の留意点・コンセプトとフォーマット

演者 綿引 淳一 先生